

平成30年度 第1回区有施設整備アドバイザー意見聴取結果

「目黒区民センターの見直し」について

| No. | アドバイザー意見 | 区の考え |
|-----|--|---|
| 1 | 本取組は区有施設見直しのリーディングプロジェクトで、隣接する施設を含めた大規模な全体見直しのチャンスである。その点を踏まえると、改修ではなく改築の方が、より広範な検討が可能となるのではないか。 | 区民センターの見直し検討は、耐震等建物面の課題のほか、必要な施設機能の精査や周辺施設との複合化、まちづくりとの関係など、多角的な課題整理を進めていく。施設の更新手法は、様々な課題整理を踏まえて検討する。 |
| 2 | 耐用年数に達していない建物であっても、敷地全体の効果的・効率的な活用、将来の維持管理経費等を考慮し、一体的に再整備することも有効である。 | ご意見を踏まえ、敷地活用や将来にわたる維持管理経費などを考慮し、区にとっての効果的・効率的なあり方を検討する。 |
| 3 | 施設を機能別に分類して検討を進める場合、その施設の管理所管ごとに検討をするのではなく、施設の機能ごとにグループ分けし、検討を進めるべきである。特に、区民センターの各施設には集会室や研修室など、様々な貸室が設置されている。部屋の名称は違えど、貸室であることに変わりはないので、それぞれの施設の管理所管ごとではなく、所管を超えて共用化を図るべきである。 | 区有施設見直し計画においても、施設の設置目的のみにとらわれることなく、施設の機能に着目した見直しを検討することとしており、区民センターの見直し検討に当たっても、ご意見を踏まえた検討を進める。 |
| 4 | 目黒区にとっての貴重な用地であるから、従前の用途に捉われず、民間との連携も考えた計画を検討すべきである。 | 当該用地を効果的に活用できるよう、民間との連携も含めた検討を行う。 |
| 5 | 他の自治体では、貸室の設置は最小限に留め、間仕切りなしで自由に使えるフリースペースを設けている例がある。同一スペースをさまざまな団体が利用することにより、団体間の交流も期待できる。このような柔軟な使い方も参考にすべきである。 | 将来の施設更新に向け、他自治体の事例の調査・研究を行い、区民センターにおける効果的・効率的な施設のあり方を検討していく。 |
| 6 | 学校施設を使用していない時間、スペースの有効活用については、積極的に検討すべきである。例えば、前者では放課後や土日の教室の利用、後者では図書室やプールを学校に設置するのではなく、学校が区の施設を共同で利用することも有効である。 | 今後の検討課題とする。 |
| 7 | 隣接する小学校を含めた検討を行う場合、将来の改築時の代替地としての活用の視点を持つことも有効である。 | 今後の検討課題とする。 |

| No. | アドバイザー意見 | 区の考え |
|-----|---|---------------|
| 8 | 区民意見の反映については、様々な手法が考えられる。例えば、手法の一つとしてワークショップがあるが、ワークショップに適した規模やタイミングなど、他の自治体での取組も参考にし、区としてもっとも適切な手法を検討すべきである。 | ご意見を踏まえて検討する。 |
| 9 | 区民センターのような大規模施設であれば、省エネルギー、環境負荷低減策など、環境に配慮した取組は必要であると考えます。 | ご意見を踏まえて検討する。 |